

# 日本のジェノグラム

早樫 一男

2

## 命名(名づけ)の話題から

### 家族に近づく

相談面接の場合、家族のご紹介をお願いした後、名前(命名)のことをよく話題にします。命名のいきさつ(決定)や思いを教えてください。

また、ワークショップの最初のアイスブレイクとして話題にすることがあります。自己紹介をする際に、「名前(命名)」から話始めるようにという課題を出すのです。

ところで、ジェノグラムの作成の際、家族を見立てる上でも、□○の横や下に家族メンバーの名前を記入しておくことは重要なことだと考えています。

また、面接の初期に、家族メンバーの命名を話題にするというのは、《家族情報の収集と仮説(見立て)へ》つながる作業ということができます。

例えば、子どもの名前(命名)を話題にするということは、命名にまつわる「家族

の決定」(家族システム)に関する情報につながります。父母だけでなく、祖父母など(拡大家族)の存在や関係性に関する情報も手に入れることができます。

具体的には、「どなたがつけられましたか?」「どのように決まったのですか?」といった質問から、「おじいちゃんやおばあちゃんはそのお名前をどのように思っておられますか?」といった質問も可能でしょう。

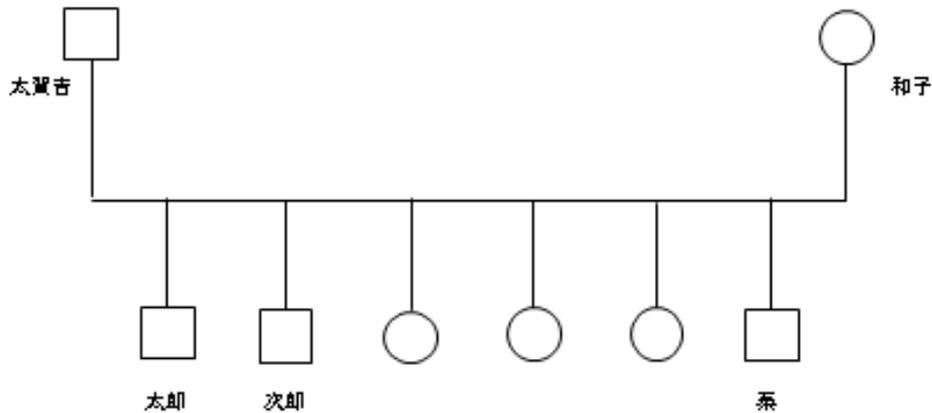
そして、会話の中で家族から話題にされたメンバーについては、引き続き、聴きこむことができます。「\*\*の一字をもらっています」という場合は、「\*\*」さんのことについて、確かめることも可能です。

聴き方が上手な場合、家族の歴史(結婚、誕生、転居、離婚・再婚 e t c)に関する情報へと話題が広がっていくことがあります。

### 名前(漢字)の意味から

「難産で生まれただけに子どもの顔を見

## A家の場合



にと《歓喜》とつけました」「優しい子に育ててもらいので《優》の一字が入っています」等、名前には意味や思いが込められていることがあります。出産前後のエピソードや子どもへの期待等々、「子どもに対する思い」について、話題を広げることができます。もちろん、家族の見立てにもつながります。

また、時には、命名の話題の中に家族のドラマが隠されていることもあります。命名から、思いもかけない話題に展開することもありました。

いずれにせよ、「名前（命名：なづけ）」は家族や個人の理解の上で、さらに、相談の初期の段階で触れることができる話題としても貴重なものということができるでしょう。

### 日本の男性の場合

キラキラネームが流行る時代とはいえ、男性の場合、名前に漢数字がつく場合をよくみかけます。ちなみに、私は“一男”です。

「一」がつく名前（例：「一郎」）を始め、「太郎」などは「長男」「最初の男の子」ということが名前から自然に伺われることとなります。それは、単に順番を表すだけではなく、暗黙に、長男役割や最初の男の子ということ、跡継ぎを期待されるということの意味する場合があります。同じように「二」や「次」がつく名前（例：「二郎」「次郎」）は次男を表しています。

## 日本の政治家に見られる名前

### (レギュラーとイレギュラー)

A家の場合 (ジェノグラム参照)、男性は「太郎」「次郎」と続いています。三男の場合、「三」が使われることもあります。しかし、A家の場合、三男はそのパターンからはなぜか異なっています。

K家の場合 (ジェノグラム参照)、「長男」「次男」という同胞位置につながる (表す) 「一」「太郎・次郎」だけではなく、名前 (漢字) の一字が伝承されている、少なくとも

三世代にわたっているということも興味深いものです。

しかし、三男はそのパターンを受け継いでいません。彼が生まれる前に夫婦が離婚しているという背景が大きく影響したようです。

ところで、女性の場合には、このような特色が伺われる名前に出会ったことはありません。ジェンダーが名づけにも影響しているのでしょうか？

(つづく)

## K家 (名前の伝承)

